

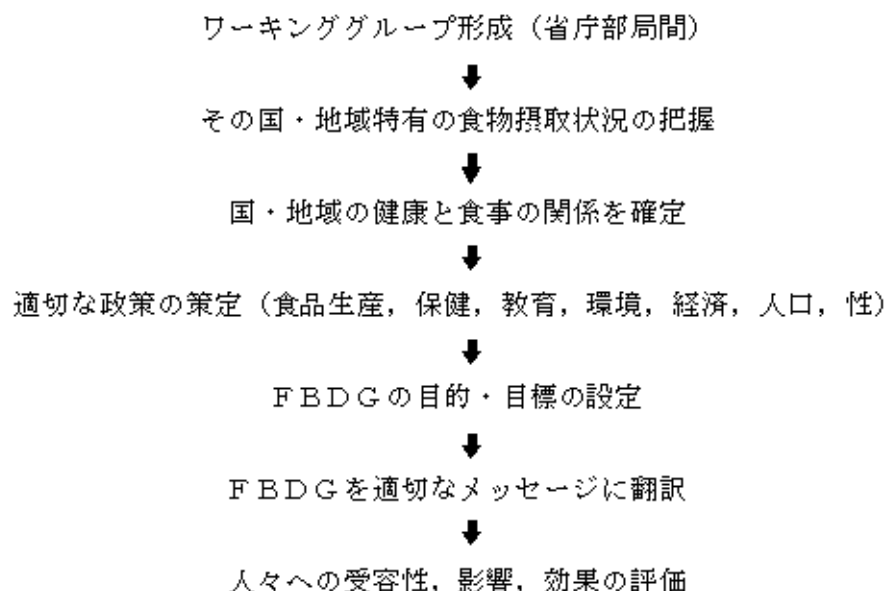
食生活指針に関する国際機関の動き
FAO/WHO合同専門家会議報告(1996)

従来、大部分の国の食生活指針が栄養素ベースで、その活用効果が中程度のレベルにすぎなかったことを踏まえ、国家機関が食生活指針を作成する際に、栄養素から地域で入手可能な食物へと視点を移す必要性を示した。

○ 基本的なあり方

-
- ・方向づけとその妥当性は、その集団の公衆衛生上の課題に基づいて決められる
 - ・その集団特有の社会的・文化的背景を考慮
 - ・その地域の経済、農業、環境などの要因を適切に反映
 - ・数値目標よりも食物パターンを反映
 - ・食に対するポジティブな姿勢、食生活の楽しさを配慮
 - ・健康をもたらす食パターンの選択幅は広いものだという認識
-

○ 策定のプロセス



出典：建白社「世界の食事指針の動向」

第1章 FBDGに関するFAO/WHOの指針（小林修平国立健康・栄養研究所所長）

[資料一覧に戻る](#)